つながりのある保育

「帽子取り」

5歳児　9月

～体を動かす楽しさを味わい、チームの仲間と協力、葛藤する～ 体育科へ

ねらい

体を動かす心地よさを感じ、様々な感情体験をしたり、友達と協力したり、作戦を考えたりして、チームの仲間と心をつなげる楽しさを味わう。

小学校教育へのつながり

- 先生対子どもで帽子を取る遊びを始め、体を動かして遊ぶ楽しさを十分味わう。（様々な体の動きの経験）
- 繰り返し遊ぶ中で子ども同士が遊び始め、遊びのルールができていく。（規範意識の芽生え）
- チームに分かれて遊んでいく中で、葛藤場面が出てきて、様々な感情を体験する。（気持ちの調整力、協同性）

実践内容

遊び始め（先生対子ども）

〈帽子取り〉

- 相手チームの帽子を取る
- 帽子を多く取ったチームの勝ち
- 時には陣地あり、時には陣地なし
- 2チーム⇒3チーム（巴戦）
- 時には全員で実施、あるいは数人ずつ繰り出し
- ルールは、子どもの必要感からその都度話し合って決めていく。
  （例：「転んだ園児の帽子は取らない」⇒「帽子を取られないようにわざと転んだ場合は取ってもよい」など、ルールが追加される）

子どもの様子によって、遊び方のバリエーションが選べる運動遊び

様々な体の動きが出てくる

相手の帽子を取ろうと本気で追いかけ、狙っている

健康な心と体

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

数量や図形、標識や文字などへの関心、感覚

チームで力を合わせて取ろうとする。

作戦会議

思考力の芽生え

言葉による伝え合い

自立心

保育を振り返って

思いきり体を動かす心地良さや様々に体を動かす楽しさを十分味わえる帽子取り。一人一人のめあてによって、新しい動きが引き出され、洗練され、自分のものにしていく。楽しいからもう一度やりたいと遊びが継続していく。また、その中で、スリル感やチームの仲間との思いの通い合いや協力、喜びや悔しさ等様々な感情を体験している。同じめあてをもち、力を合わせたり、思いを重ねたりする経験が積まれている。